第２回山田町総合計画審議会_議事録

開催日時：令和７年６月 17 日（火）午後２時 00 分から午後３時 24 分
開催場所：山田町役場５階委員会室
出 席 者：佐藤清悦委員、菊地敏克委員、佐々木剛弥委員、山﨑淳一委員、倉原宗孝会長、
沼崎真也委員、昆尚人委員、阿部誠二委員、清水野牧子委員、高橋富士雄委員、
船戸義和委員、千葉紀眞子委員、阿部美恵子委員
欠 席 者：長﨑千秋委員、梅澤拓也委員
事 務 局：田畑政策企画課長、佐藤課長補佐、鈴木係長

１　開会

２　会長あいさつ

〇倉原会長

皆さま、本日はご多用のところ、第２回山田町総合計画審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

本日の議題は、「第９次山田町総合計画後期基本計画の振り返り」です。令和３年度からの取組について、進捗状況や自己評価、事業費の実績などを整理したものであり、次期計画の検討に向けた基礎資料となるものです。なお、今回の審議会は、施策の評価そのものを目的としたものではなく、こうした振り返りを踏まえ、次期計画に向けて改善すべき点や重点化の方向性についてご意見を伺うことを主な目的としております。

委員の皆さまには、これまでの施策の展開を俯瞰していただき、今後のまちづくりの方向性について建設的なご提言を賜れれば幸いです。

本日はどうぞ、忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

３　審議会委員及び事務局の紹介

事務局より、審議会委員及び事務局の紹介を行った。

〇事務局・佐藤課長補佐

議題に入る前に、委員の皆様にお知らせをします。本審議会の会議録につきましては、発言者、発言内容も含めて公表する予定となってございます。会議録の公表にあたりましては、出席された委員全員に内容を確認いただいた上で、ホームページ等で公開したいと考えておりますので、ご了承くださるようお願いいたします。また、録音の関係上、発言いただく際はマイクをご使用くださるようにお願いをいたします。

４　議題

第９次山田町総合計画後期基本計画の振り返りについて

事務局より、説明を行ったところ、以下のような質疑があった。

○佐藤委員
　参考資料４ですが、郵送調査で 2500 人に送付し、回答率は約 30％とのことです。この回答率で問題ないのでしょうか。
○事務局・鈴木
　意識調査においては、必要な標本数に関する統計的な基準があります。山田町の人口規模から算出すると、おおむね 400 件程度の有効回答があれば町全体の傾向を把握できるとされております。
○倉原会長
　資料２について、事前に阿部委員や千葉委員、長﨑委員から熱心にご意見、ご質問いただいてるようですが、ちょっと説明をいただけるでしょうか。
○事務局・鈴木
　資料２について説明。
○倉原会長
　ご質問、ご意見、非常に貴重なところだと思いますし、それに対して丁寧な対応、ご回答いただいてるかと思いますけども、千葉委員、阿部委員、どうでしょうか。
○千葉委員・阿部委員
　分かりました。ありがとうございます。
○倉原会長
　参考資料１の３ページ。現状値が０件から１件になるということで、評価も変わるんでしょうか。
○事務局・鈴木
　医師招へい活動は行ったものの、医師の招へい自体はできていないということで所管課ではＤ評価としております。
○倉原会長
　あともう１つ、バス停の文字を大きくという点ですが、町の意向で大きくできるものなんですか。
○事務局・鈴木
　町の方で置いているバス停については、町で変更可能です。
○倉原会長
　はい、分かりました。
○山﨑委員
　資料１を見ると、商業施策についてＡ評価が４つも付いており、評価は高いように見えますが、計画額や実績額に色が付いていないのは残念です。10 次計画では予算面も充実させてほしいと感じます。
○事務局・田畑課長
　今後、各課から次期計画に向けた事業案を集約し、庁内で調整していく予定です。本日のご意見は商工観光課にも共有いたしますが、必要に応じてご意見を直接担当課へお伝えいただくとよりスムーズです。
○沼崎委員
　観光の成果指標として掲げられている「体験型観光体験者数」についてですが、目標値がどのように設定されたのか分かりませんが、実績を見ると、コロナ禍に比べてむしろ減少傾向にあります。当時は、岩手県内は感染者数の少ない地域ということで、修学旅行などが来る機会が多かったことが影響しています。

○事務局・田畑課長
　宮古市に客船が寄港するようになりましたが、その影響はいかがでしょうか。
○沼崎委員
　マリンツーリズムの観点では、一度に受け入れ可能な人数が 20 名に限られており、それを超える申し込みについてはお断りしている状況です。また、オランダ島に関しては、桟橋の修理に多額の費用がかかる計画があるようですが、費用対効果の観点からは大きな成果はあまり期待できないのではないかと感じています。町民としてオランダ島に行けること自体は嬉しいのですが、収容人数にも限界がありますし、町の予算ではないにしても、法面が毎年のように崩れて、そのたびに修繕を行っているというのが現状です。
○事務局・田畑課長
　現在のところ、修繕の具体的な方法については確定しておりませんが、たとえば桟橋の小型化など、担当課において可能な対応策を検討しているところです。
○船戸委員
　評価指標についてですが、これは担当課が任意に設定しているものでしょうか。というのも、評価指標の設定の仕方によって評価が大きく左右されることがあるからです。たとえば、目標を高めに設定すると達成が難しくなり、結果的に評価が低くなる。一方で、低めに設定すれば容易に達成され、良い評価になることが一般的です。このような評価指標は、基本的に担当課の裁量で作成・設定されているという理解でよろしいでしょうか。
○事務局・鈴木
　ご指摘のとおり、評価指標には高すぎるものや低すぎるものが存在しているのが実情です。その点につきましては、今回の振り返りの中で担当課とも共有を図ることができたと考えており、次期計画においては、より適切な設定となるよう改善を進めてまいります。
○倉原会長
　評価についてですが、担当課が出してきたものに対して、委員の皆さまから評価の修正や見直しについてご意見を出す機会はないのでしょうか。
○事務局・鈴木
　昨年度まで倉原先生に会長を務めていただいていた総合戦略検討委員会では、委員の皆さまからのご意見を受けながら進める形をとっておりました。ただ、今回の審議会は、評価そのものを皆さまにご判断いただく場ではなく、あくまでこの A・B・C・D の評価は、所管課の現時点での自己評価を参考として見ていただくものと考えております。重視しているのは、次の計画に向けてどのように改善していくかという観点で、皆さまからご意見をいただくことです。
○倉原会長
　了解しました。総合計画のような包括的な計画を考えていくうえで、何らかの「手がかり」となる指標がなければ、議論を前に進めるのが難しい場面もあるかと思います。そういう意味でも、様々な指標を掲げていくことは非常に有効だと考えています。一方で、あくまでそれらは「参考」であり、もしかしたら設定されていないが重要な指標があるかもしれませんし、社会情勢や町の状況の変化に応じて、新たに重視すべき指標が出てくることもあるでしょう。そうした点を踏まえ、柔軟に見直し・更新を図りながら、計画づくりを進めていただきたいと思います。
ところで、参考資料３の「ワークショップ報告書」ですが、参加者の皆さんが非常に楽しそうに意見

交換されている様子がうかがえました。このような取組は以前から継続して実施していたのでしょうか。

〇事務局・鈴木

総合計画策定のためのワークショップということでは、おそらく山田町としては初めての取り組みだったんじゃないかなと思います。

〇倉原会長

そういう意味では、良いアイデアをいただくことでより良い計画をつくる、という点ももちろん大切ですが、ワークショップのように「わいわい」と意見交換をする場自体が、町の活気につながるという面も大きいのではないかと思います。交流を深める機会としても非常に有意義ですし、良い意見を出していただくことが目的であると同時に、その「場」そのものが１つの成果とも言えるのではないでしょうか。

〇昆委員

私は第１回のワークショップに参加させていただきました。いろいろな話が出て、「こういう町にしたいよね」というような声が多く聞かれた印象があります。皆さん、実は多くの思いを持っていても、それを口に出す機会がなかったのではないかと感じました。そうした場がなかったからこそ、自分の思いが町政に反映されていないと感じていた方もいらっしゃるのではないかと思います。だからこそ、こういう機会が設けられたことはとても良かったと感じていますし、今後はもっと若い世代にも参加してもらうと、より面白い展開があるのではないかと感じました。

〇倉原会長

今のお話にあったように、ワークショップという「場」自体が良い取組だったと思いますが、一方で住民の皆さんの感覚としては、「自分の声がまだ十分には届いていない」といった受け止め方もあるのかもしれませんね。

〇事務局・田畑課長

昆委員がおっしゃったように、参加された方々からは「非常に楽しかった」「また参加したい」という声を多くいただきました。そうしたご意見を踏まえると、こうした意見交換の機会は今後も必要なのだろうと感じております。

〇倉原会長

D 評価の項目について、事務局から簡単にご説明いただけますか。

〇事務局・鈴木

D 評価の項目について説明。

〇倉原会長

中身を見てみると、たとえば PPP/PFI の推進など、必ずしも実施を義務づけられるような内容ではない施策も含まれており、それほどネガティブに捉える必要のない項目もあるように感じました。

〇山﨑委員

「買い物弱者への支援」が D 評価になっていますが、これは本来、商工観光課ではなく、公共交通を担当する政策企画課の所掌ではないのでしょうか。

〇事務局・田畑課長

この事業については、買い物弱者の方を店舗まで送迎するという視点であれば、政策企画課が所管する公共交通施策になりますし、一方で店舗側が移動販売を行う形での支援であれば、商工観光課の

担当になります。今回の計画ではその整理が不十分だったため、次期計画では事業の目的や実施主体の整理をより明確にしたいと考えています。

〇船戸委員

C評価が多く見られる「水産業の振興」「商業の振興」「移住・定住の推進」について、事務局ではどのように受け止めておられますか。

〇事務局・佐藤課長補佐

お尋ねの３項目については、町民からの要求度も比較的高く、重要な施策分野であると認識しています。そのため、今後の見直しや改善の方向性を検討する必要があると考えています。

〇船戸委員

商業の振興については、起業や創業支援など、まさにゼロから一をつくるような取組であり、大変な労力が必要です。短期間で成果を出すのは難しく、５年の計画期間だけで完結させるのではなく、もっと長期的な視点での施策検討が必要だと感じています。

〇倉原会長

確かにそのとおりだと思います。ここに記載されている指標だけの達成に注力してしまうと、本来の目的から逸れてしまうおそれがありますので、その点は十分に留意すべきだと考えます。また、否定的に見える項目であっても、それを単体で見るのではなく、複数の課題を組み合わせて考えてみる、いわば「マイナスとマイナスをかけあわせる」という視点も必要ではないかと感じています。

〇船戸委員

水産については詳しくないのですが、県内各地でサーモンの養殖が行われていると聞いています。岩手県全体として、統一されたサーモンブランドを生産するなどの考えはないのでしょうか。

〇菊地委員

現在のところ、各市町村がそれぞれにブランド化を目指して個別に取り組んでいる状況です。そのため、県全体で統一するというのは、なかなか簡単な話ではないと思います。

〇事務局・田畑課長

町としては、県に対し「県全体で統一したサーモンブランドを確立してほしい」との要望を出しているところです。

〇菊池委員

道の駅船越周辺の植栽があまり整っていないようなので、きれいに整備していただきたいと思います。

〇沼崎委員

山田駅前ロータリーの植栽も見た目が良くありませんので、改善をお願いしたいです。

〇事務局・田畑課長

どちらのご指摘も、所管課に伝えたうえで、今後の対応を検討してまいります。

５　その他

事務局より、第３回総合計画審議会は令和７年８月７日（木）とする予定である旨説明。

６　閉会